

野球応援歌について



渡辺 通

歌詞

宮島さんの神主が

おみくじ抽いて申すよう

何時も地御前が

勝ち~~~~~

勝った方がエーヨ

この歌は三段階の紆余曲折を経て明治四十四年の夏以前に地御前村内で成立したもので、昭和四年に成立した所謂「地御前村歌」と共に地御前村民の心意気を表明したものである。これらは作詞されたから約八十年を経過し、最近の転入者は勿論、事情を知らないで、成立の事情を順を追って記載して置く。

ハワイ移民は明治十八年（一八八五）に始まったが、地御前の野球は明治三十年頃、ハワイ移民が伝えて始まった。マスクは村の鍛冶屋が大きな針金で作り、野球場は鉄道布設で上田尻に出来た空地を利用し、組は旧来の慣行で町と

浜の二組に分かれていた。

次は歌詞である。古来の対抗意識をむき出しに、始めはただ「町（又は浜）勝て、町勝て、勝った方が良ーぞ」と応援した。これが歌詞の末尾の部分となった。

次いで、先進野球団の強みで、対外戦に常勝したので「何時も地御前が勝ち、勝ち、勝ち勝ち」と云う部分が附加された。又日露戦争の戦勝祈願と杓子で飯（召）取るとの縁起関係で「宮島さんの神主が云々」と云う文句が上に附加されて、この奇抜な応援歌が村内で完成した。更に附言すれば、村請けの地御前神社の拝殿が明治二十四年に倒壊し、修復のための寄附問題が村民の念頭に在った。

次は奇抜な応援体勢である。これは、明治四十四年（一九一）夏に、地御前郷友クラブと廿日市篠尾倶楽部とが廿日市小学校の高須グラウンドで対抗試合を挙行した時に初めて披露された。村内に有る限りの大太鼓の担ぎ込み、十名のラッパ隊、村社の祭祀用である

天狗の服装で乗込む者、大杓子の持込みなど、その異様さは人目を驚倒さすに充分であった。しかし肝心の野球は、県師の本式の投手を村青年として起用したが、足の負傷で敗れた由。

ところが、この地御前の応援歌並びに応援服装は、同春秋が翌年には、広島で県中と広島商業の恒例の対抗野球戦に、両校の応援団が其儘に持込み、大混乱を生じた。結局、両校へ通学していた地御前出身者導師の話し合いで、以後、県商だけが借用することに決定した由である。

広島商業は大正五年（一九一六）八月の全国中等野球第二回大会で、地御前村の応援歌並びに応援方式（杓子）を天下に披露している。以上の次第で、召取り杓子だけは、今日でも野球戦に名残を留めている。

野球競技は大東亜戦時代には、敵国の競技だとして弾圧され、地御前出身の名選手も、或いは中国の山東省上空で散華し、或いは原爆で死亡し、或いは筆者の同級生で戦後、満鉄より引上げ帰国した者も十七年前に病死した。最後に見舞った折にも、野球談を一時間

許り聞かされて、その執念に驚いたものである。

以上は、筆者が昭和五十四年に、地御前地区独特歌謡集に詳説したものを、紙幅の関係で要約した。

編集後記

じごぜんひろばも回を重ねて本号を以て四十号となりました。初版からの各号に亘り寄稿を頂きまして皆さんに心から御礼申し上げます。今こゝにコ推協発足当時を振り返ります時、先人のご苦労に思いを致す時、感慨無量のものがあります。初代、二代会長もすでに故人となれましたが、こうした立派な指導者のもとに昭和五十二年、県の指定を受けて今日で十六年間受け継いで来ました。廿一世紀は地方の時代といわれています。こうした時こそ、コ推協の活動を通じて其の果たす役割は大きく、住民サイドに立って連帯の輪を拡げて行く事が、もっとも大切な事と思われまふ。

今後共皆様のご協力を得ながら存続して行きたいと念願しています。皆さん投稿をお待ちしています。



人のふれ合い

コミュニティ活動

コ推協会長 吉本 武

平成六年度の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。地御前コミュニティ推進に関しまして、皆様方のご理解とご協力を賜わり、深く感謝を申し上げます。次第でございます。

我が地御前地区コミュニティ推進協議会は、昭和五十二年六月に広島県内において、コミュニティづくりのモデル地区として指定を受け、地域住民一体となり、広報、文化、福祉、生活、体育、青少年、の六部からなる組織構成の基に発足、以来十六年間にわたり、文化と地域福祉活動に取り組みでまいりました。地域連帯と互助を基調にご盡力された諸先輩の方々に對し、深く敬意を表します。顧みますと、近代の日常生活は経済、教育、福祉、いずれも一昔前とはくらべものにならないほど一段と豊かになりました。これも日本経済がめざましく産



業化社会へと遂げたお陰でしょうが、一方で勤労者世帯の増加、核家族化等の様々な生活環境の変

化に伴い、人と人との問題すなわち、人間的、人のふれあい等においても昔とちがって敗退しているようです。今日コミュニティづくり実践の原点は住民意識の連帯のもとに、より豊かな地域づくりを継承することです。

高令者社会を迎えたその中で、現実には、福祉、生活、女性部員一同によつて、豊かな経験を生し、ボランティア活動の一貫として、一人暮らしの方、介護を必要としている高令者への相互扶助活動に取り組んでいたいと思っております。大変ご苦勞なこと、思っています。

今後高令者対策で介護を要する方々を、家庭や地域社会等で温かく支えられる福祉サービスにつとめ、また青少年健全育成に心の通う温かい地域福祉の形成を目指し皆様が関心と積極的な参加をたれ、活力に満ち、活動する喜びを共に持ち合い、明るい住みよいまちづくりに努力しましょう。

新年を迎えるにあたり地域の発展コミュニティ推進に深いご理解とご協力のほどをお願い申し上げます。今後の皆様のご健康とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

ふるさとに生きる喜び

市議会議員

中山 薫

『地域社会と私達』なんとすばらしい言葉ではないでしょうか。私達は地域社会に生まれ、育ち、生きて来ました。村民が遠く海外に雄飛した地御前村時代、町村合併を経て広島西の開発構想の中でその立地環境の特性を考え木材港建設と阿品台開発、その発想がその原動力となったのであります。私達はふるさとに限りない愛着をおぼえ、願いをもつものであります。その願いとはなになるのでありましょうか。

ふるさととは、歴史をおもひ、現在に努力し、将来を展望していくものだと思います。

今年は広島でアジア大会が開催されます。アジアで首都以外で開かれる大会は広島大会がはじめてで、その意味でも大きな意義をもつ大会だといわれております。

このアジア大会は、廿日市市の隣り佐伯区の『西部丘陵都市』ビッグアーチを主会場に開催されます。この西部丘陵都市をこのたび

広島市は『西風新都』と定めたこと報じております。

西風新都は①地理的に広島市の西方に位置する②人と自然の共生を目指す優れた都市環境を『風』という言葉に託す③西風はアジアから吹いてくる風で広島アジア大会の記念性を持つ——などの意味がこめられており将来十万人規模の新都市を建設するといわれております。

廿日市市も今、人口六万九千人将来十万人を想定してまちづくりが進められております。

海と緑と人が織りなすクリエイティブ・シティはつかいち——はつかいちには海、山があり、緑があり歴史があります。

そしてなにより大切な人の和があります。

人びとは洋の東西を問わず古今を問わずふるさと（まち）を創造して来ました。

地御前コミュニティ推進協議会また『じごぜんひろば』は大きな足跡をのこしました。

これからも力を合わせ協力し合いながら夢多き地域社会のため、一はつかいちー発展のため努力していこうではありませんか。

福祉部

部長 宮本忠夫

『地御前地区に於ける地域福祉の概況について』

日本の社会構造は近年大家族主義から、核家族主義に様相を変え加えて次第に高齢化が進む中、此の地域に於いても、老人に関する諸問題が急速に増加しつつある。此の時期に於いて、当地区の皆様方に地区の福祉面の実状を知って頂き、将来協力或いは助言等賜る上からも、意義あること、思い、ほんの概略のこと乍ら、逐次説明させて頂き度いと思う。

① 先ず一人暮らし老人のことに
ついてあるが、年令の高下、親族の有無及び其の遠近、その他、環境等に於いて差異は種々あるが、総じて言えば、現在一〇五名を数え、漸増の傾向にある。これに対し吾々部員は手分けして一週間二、三度の割で、巡回訪問して、其の安否を確かめ、又相談等あればこれに応じている。又高令等に不自由になれば、適応する病院に入っ

スポーツ活動推進

地域指定について

推進運営委員 吉本時義

文部省では、子供からお年寄りまで、いつでも、どこでもできるスポーツ、レクリエーション活動を楽しみ、活動を通じ交流を深め生き生きとした生活のできる地域づくりをめざし、全国ブロックごと八県を指定した。中国ブロックでは広島県が指定を受け県下の市町村の中から、廿日市市が推薦されました。これを受けて廿日市教育委員会では

- ① 早くからコミュニティ組織が結成され、市民会議、体育指導員をはじめとする地域団体が活発に活動している
- ② 平成五年度は、野坂地域の小中学校が週五日制実施研究地域協力校に指定されている
- ③ 平成八年度国体では、廿日市市が柔道会場に予定されており、其の中で野坂学区は児童が所属する各スポーツ少年団があり、クラブ活動の盛んな野坂中学校を会場とする柔道大会が度々開

催されている

これらの実績が評価され古くからスポーツの盛んな土壌を持ち多くの有名選手や指導者の多い野坂地域が、スポーツ振興の先進地となり得るとの判断から指定された。

- 私達地域スポーツ推進運営委員会は、市教育委員会に事務局を置き、小、中学校教職員、PTA、体育指導員、スポーツ審議会、コミュニティ、市民会議の代表者十七名の委員によって構成されています。推進運営委員会の事業は
- ① 野坂地域における学校と地域社会の連携の在り方
 - ② 野坂地域のスポーツ施設の連携と活用の在り方
 - ③ その他この事業の目的を達成に必要な事項
- などについて活動しております。本年度の具体的な活動として、会員相互の研修会、各種スポーツ大会への参加協力、また新しいスポーツ講習会として、グラントゴルフ、ソフトバレーボールを開催し、多数の参加を得て親子共々心地よい汗を流しました。
- 来年度は、アンケート調査の結果に基づき計画実施いたします。多数のご参加をお待ちしております。

自治宝クジ

助成品

来る

財団法人自治総合センターより宝くじ助成用品として、グラントゴルフの道具四セット、綱引き用の綱が助成されました。

町内会、子供会、長寿会、助成会等の地域、社会教育団体に貸出しを行います。

助成の主旨にしたがってより多くの皆さんが利用され地域健康の促進に役立たせていただきます事を念願致します。

利用については公民館に連絡して下さい。

青少年部

部長 大倉 巧

次代を担う青少年の健全育成の推進が青少年部の主たる活動です。現代のレベルをより引き上げることを目指した育成活動と安全の維持の為、法に反する行為の是正の指導活動等が考えられます。

前者については、活動方針に個人差があり、指導には専門的な能力が要求されると考えられます。

後者は、基準が法などで明確であるため、わりあい判断が容易で指導方針が出しやすいともいえます。このようなことを悩みながら、青少年部は、コミュニティ内、最少人数で運営されています。幸いにして青少年の健全育成について地域の皆さんの理解も深く、援助していたべく土壌が熟成されているため、諸活動も滞りなく遂行できることに大変感謝しております。

本年の活動は、①管弦祭のパトロール②秋祭りの「はな」の対策を行いました。

①管弦祭のパトロールは、例年近辺の学校PTA、市民会議などの協力を得て毎年実施しております。

すが、お陰様で本年も特別な報告はありませんでした。

②地御前秋祭り「はな」につきましては次のように展開いたしました。暴動的な行動をとる「はな」に刺激されて、こども達が、列車の軌道内に逃げ込む、交通頻繁な道路を無理に横断する等、生死に関わる行動をする事、近所の家屋駐車中の自動車を破損したりするという迷惑行為、そして「はな」自体の行動がエスカレートして子供を竹の棒で「しばく」等、常識では目に余る行為がありますので、地域の問題として取り上げることになりました。また、「はな」の本来の意義の検討も行い、伝統の保存の重要性も議論しました。その結果、本来の「はな」の形を再現したい、現在の「はな」は廃止するという結論に達しました。

近辺の小中学校を通じて各家庭へ趣意書の配布、ポスターの掲載を行い、当日は、警察、小学校PTA役員の協力も得て指導いたしました。其の都度、地御前地区の趣旨を伝え、解散していただきましました。この対策は、次年度も同様に継続し、「はな」の行事につきましては、今後は、地御前郷土文

化保存会によって文化保存として「猿田彦命尊」を「はな」として行われる予定であります。

地域の方々、野坂校区関係者、地御前小学校PTA、町内会関係者、廿日市警察署、地御前コミュニティの他部の方々の協力に大変感謝し、今後もより良い社会環境の整備の遂行に努力してゆきたいと思しますのでご協力よろしくお願い申し上げます。

女性会

部長 山崎憲子

コ推協と女性会のかゝわりについて書いて欲しいとの広報部の依頼であれこれ考えてみて、女性会が地域の中でかゝわっている事は人と人のつながりを深めていくやさやかな橋渡しをしているのではないかと思います。

五月に行われる運動会は、色々役員と苦労話を聞きますが、女性会とは併当の世話をして多くの人達との出会いの中で挨拶が生まれ話に花が咲く時もあります。

体育部主催のグラウンドゴルフの後、大きな鍋で作った熱い汁とん汁を、吹き／＼食べながら結果

を待つ間に、顔が合い暖かい交流が生まれております。

生活部との共催の「男の料理教室」には其の日を楽しみに参加してくださる方とお会いすると旧知の親しみを感じます。

福祉部、生活部、共催の高令者の交流会は、弁当を作り、共に食べ賑やかに話の輪が広がるのを多くの方が楽しみに待っていてくださるのを感じる時、コミュニティづくりに少しは役に立っているかなと思います。

食用廃油の回収運動を十年来つづけており、廃油を原料に石けん作りを毎月実施しています。時々コ推協と共催すると思いがけない方の参加があり、その中で地区をこえて女性会への入会があり、私達もコ推協の活動に支えられている事をおかしく思います。

コ推協の部活動行事に多数参加して頂き、まず人と合う事、それがきっかけとなって挨拶を交わすそんなふれあいのある地御前地区になって欲しいと、今年もさ／＼やかな活動ですが頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

各部だより



文化部

部長 北野正之

地域に古くから伝わる文化的諸行事を再現し、盛り上げると共に子ども達の故郷作りと併せて仲間作りのふれあいの場を提供する。

昨年中の事業は次の通りです。

四月公民館落成祝賀行事。各月の諸行事への手伝い、大人と子どもの集いとして昔の遊びの伝承を第二土曜日に行っています。九月よりこれを「どんぐりクラブ」と名づけ今後も続けていきます。

地区の文化保存会とも手を取り合って町おこしの助けになりたい。

平成五年度行事を次のように行いました。

平成五年四月十日

公民館落成祝賀行事

平成五年六月二十四日

御陵衣祭 流鏑馬行事

平成五年八月二日

管弦祭前州堀行事

平成五年八月十五日

盆行事

平成五年十月十日

氏神社 秋祭りの行事

平成五年十一月三日

郷土歴史の散歩道

平成六年一月十五日

とんど行事

〈大人と子供の集い、昔の遊び〉

平成五年六月十二日

郷土名所めぐりスゴロク遊び

平成五年七月十日

そうめん流し、竹でコップ、箸作り

平成五年八月二十二日

わらざうり作り、夏休み工作

平成五年九月十一日

「どんぐりクラブ」の名称となつて、昔の遊びを行う

お手玉、ヨーヨー、けん玉

秋祭り行事で、昔の遊び二

平成五年十月九日

平成五年十二月十一日

竹馬作り

平成六年一月八日

羽子板作り、スゴロク遊び

平成六年二月十二日

風作り、の予定

平成六年三月十二日

未定

新年度も昔の文化を継承して子供達へ伝承してゆきたい。

体育部

部長 相良宏三

昨年のコ推協総会での役員改選による余波で、はからずも体育部長という要職に就く事になり、三代めの部長として頑張ります。

第十五回となる地区民運動会は好天にも恵まれ、五月十六日に盛大に終了。二区が二連勝を飾りました。地区住民の参加数では最大のイベントであるこの大会を、皆様方のご意見を聞きながら、もっとより良い大会にしたいと思います。

四年前から現在の型式になったハイキングは、今回は開港直後の広島空港と県中央森林公園へ行きました。参加希望者が予想以上の多さになり、急遽バスを一台追加して一〇九名にもなりました。あいにくの小雨で、サイクリングは楽しめませんでした。この行事に対する皆様の期待が感じられ、

生活部

部長 石川孝幸

次からも張り切って実行します。三月にはグランドゴルフ大会を計画しています。冬の間、体をあまり動かしていない方々、ぜひご参加下さい。お待ちしております。

謹んで新年のおよろこびを申し上げます。昨年は生活部活動に何かとご支援をいただき厚くお礼を申し上げます。

生活部も地域住民の積極的な奉仕活動により、良い環境作りをするため快適な地域づくりを推進するよう努力いたしております。

活動としては次のような行事を行って来ました。七月、十月に男性料理教室、十二月に「さくえ会」とり暮らしの高令者の会の昼食会、又、女性会と共催で廃油利用の石鹼作り等。

今年も皆様のご協力を得ながら頑張っていきたいと思っております。宜しくご指導、ご協力をいただきまします。尚、生活部員として入部していたゞきます様お願い申し上げます。

ふるさとを思ふ

警視庁剣道師範

小川政則

「ふるさと」の山に向かいて言ふことなし、ふるさとの山はありがたきかな」ふるさとという言葉を書くとき私はいつも啄木のこの詩を想い出す。何度口ずさんでもそのたびに新しい感情がこみあげ心のときめきを感じる。

私の育ったふるさとは今の広島県廿日市市地御前で以前は広島県佐伯郡地御前村といった。瀬戸内海に面し安芸の宮島厳島神社の真向いに位置し、そのため神のいる地の御前であるとゆふことで地御前とゆふ地名になったと古老に聞いたことがある。

また裏側には山が峰を連ね中国山脈に続き、北側には極楽寺山が優しい稜線を描き山裾には宮内川が流れ清らかな水を瀬戸内海に注ぎ厳島神社の朱の大鳥居が望まれる。

私にとっては子どものころに焼きたつけられたこのふるさとの山や川はとても大きく広く高く感じられた。

瞳を閉じれば今でもこの景色が走馬灯のようにはつきり浮かんでくる。村のまん中にある浄土真宗の名刹西向寺の鐘の音がゴーンと聞こえる。あの高い鐘樓の屋根に登り、四国が見えるなどと大声で叫び先代の院主さまに大目玉をもらった事もなつかしく思い出される。

啄木はまた、『ふるさと』に入りて先ず心傷むかな、道広くなり、橋も新らし」と歌い、ふるさとの変貌ぶりに心を傷めている。小学校に通った道、竹馬で遊んだ道、端午の節句に馬が疾走した道、盆踊りを踊った道、この道は今も舗装され自動車我が若顔で往来している、その様子を見ると、ふるさととは遠きにありて想ふもの、とゆふ詩を思い出し、今と昔は違うのだと思ひ啄木と同じ気持ちになつてくる。

この度父の十三回忌にあたり父と吾子の墓参りをした。

「父の墓草むしりして掌を合す墓参り生あるごとくち、ろなぐ」十八才で上京しはや三十七年どんなに時はたち景色は変わってもふるさととはあの日あのかのま、で心の中に生きている。

「うさぎ追ひしあひの山、小鮒つりしかの川」この歌を口ずさみながら幾度ふるさとを想い涙したことだらう。だがふるさととはやはりなつかしくありがたく、私の心を包んでくれる。師、友、海、山、川、そして育ててくれたふるさとの人々に清らかな幸を祈らずにはいられない。

拳頭望山月、低頭思故郷
李白の詩を心中に吟じながら筆を置こう。
東京在住

編集後記

地御前地区の皆様、明けましておめでとうございます。お元気で新しい年をお迎えの事と存じます。昨年中は、コ推協の諸行事に対し皆様方のコ推協に対するご理解とご協力により大きな成果をあげた事が出来ました。有難うございました。

コ推協も昭和五十二年発以来十七年間を振り返りますと、地区も大きく変貌を致しました。其の中にあつてコ推協も着実に歩みを進めて今日を迎えました。

初代会長をはじめ歴代会長の中にもすでに故人となられた方もありますが、先輩の築き残された足跡と功績に対し頭が下がる思いが致しますと共に次の世代に引き継いで行く事が今の私達に課せられた責任と致します。

「じとせんひろば」も発刊以来号を重ねて今回で四十一号となります。刊行にあたって来られました諸先輩に対し心より感謝致すところです。原稿集めに始まり、校正、割付、印刷、配布と仲々大変な事でご苦労の多かった事と推察します。今後も地域に密着した、色々な記事を集めたいと思います。地域の皆様のご協力なしでは発行を続けて行く事は困難です。

原稿の依頼に参りましたらご協力下さいます様お願い致します。原稿は随時公民館で受け付けております。どんな事でも地域に結びついた、ご意見などお寄せ下さる様お待ち致しております。

地域とともに

地御前小学校長

荒木尚子



№. 41
発行 平成7年1月15日
地御前コミュニティ
推進協議会

手をつなぎ 心を結び 明るい 住みよい まちづくり

地御前小学校は、明治六年四月五日創立ですから、今年、一二二年目を迎えています。現在の校長室あたりにあった釈迦堂を校舎として、「必隣舎」と称し、六十三名の児童により開校しました。

以来、幾多の変遷をたどりつつ、一〇、三〇〇人の卒業生を送り出し、「おらが学校」として親しまれ続けて来た輝かしい歴史をもつ学校です。そして、伝統的な行事や由緒ある史蹟、恵まれた自然の中で、地御前村歌にもある、百折不とうの意気と、相愛、心に燃え立ちての精神の生きている地域なのです。

現在、本校の児童数は五一八名で、文字通り、地域の真ただ中にある学校ですので、周辺の家々には、運動場の埃、諸々の騒音等毎日計り知れない迷惑をおかけしていますが、温かく見守り、ご協力をいただいて、本当に有りがたいことだと感謝しています。

地域と学校との触れ合いを思いますとき、先ずあげられるのは、



なっています。一昨年は、そのことが縁で、校歌を作詞して下さった中井正文様、作曲の梶山逸夫様を校内音楽会にお招きをし、作詞

に込められた思いを聞いたり、作曲者自らの指揮で校歌を高らかに斉唱したということもありました。更に、運動会で地域の方と踊る盆踊りの歌や太鼓も、子ども達でと、クラブ活動の時間に保存会の方々が指導して下さいました。

その他、多くの方が地域学習の聞きとり調査や講師としてご協力下さり、念願の社会科・生活科公開研究会も行うことができました。更に有りたいと思う中に、長寿会の方々と清掃活動があります。昨年、世話役の中谷様、増村様より「学校に役立つことで子ども達とのふれ合いをしたい。」とのお話があり、喜んで校庭の樹木の剪定等をお願いしました。子ども達は、葉っぱを集めたり、一緒にトイレ掃除をしたり、ジュースを飲んだりして色々教えていただいたております。集合時間も早くから、しかも、百人位も来ていたでいて学校を大切に思っ下さることに心から感謝をしている次第です。

このように、古い伝統と温かい地域づくりの中で、地御前の子ども達は、明るく優しく育てられていくのだと幸せに思う昨今です。

「コミュニティ活動と行政の役割」

市議会議員
油木 徹

わが国に「コミュニティ」と言う言葉が、いわれ始めたのは、昭和二十年（三〇年）、その必要性と、行政の役割を明らかにしたのは、昭和四十四年九月、国民生活審議会調査部会コミュニティ問題小委員会の報告であり、「国民生活優先の原則」に沿って、生活の場において生活を豊かにするための基礎的条件を整備する観点からコミュニティをの必要性を提起し、コミュニティを「生活の場において、市民としての自主性と責任を自覚した個人および家庭を構成主体として、地域性と各種の共通目標をもった、解放的でしかも構成員相互に信頼性のある集団」と定義されこの基本的な考え方は自治省にも設置されたと私は、理解しております。

こう言った観点からコミュニティ形成に向けての行政の役割は、これによる実効性の付与されたフイルドバック、システムの確立を

念願とし「市民のコミュニティ形成のために必要な条件を整備することが行政の課題となるべきことを十分考慮しなければいけない」いわゆる、行政は住民要求の性格を把握するとともに、それを通して市民参加を促すことであると私は思うし又、行政の課題として、市民の安全で健康な生活のための最も身近な基盤としてコミュニティの役割は、高齢化社会、国際化、又情報化の中でますますその大きさを増している今日、個性ある地域づくりの重要性が一層認識され、新しい要請の中で行政側も引き続き施策の充実を図っていく必要があり、今後共ハード面はもとよりソフト面を含めた活力あるコミュニティ活動のあり方を検討するとともに個性ある地域づくりに資するような文化・イベント活動への助成等、住民の連帯感に支えられた地域社会の形成に向けて幅広い今野での行政の役割が強く求められていると、私は強く感じるものがあります。

こういった市民要望に対して、行政側として限界があることもわかっておりますが市民の台所を預かる側として、最大の努力・誠意

が伝わってこそ市民は感じると思っています。
私も地御前に住まわせていただいて約十年、すばらしい「地御前コ推協」をつくりあげられた地域の一人一人又諸先輩方々の御苦勞を身に感じ、中山議長と力を合せ魅力ある地域づくりをしてまいります。

地域と住民 「コミュニティ活動」

コ推協会長
吉本 武

平成七年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、コミュニティ活動に関しまして、皆様のご理解とご協力を賜り、深く感謝を申し上げます。次第でございます。

本地区は昭和五十二年六月広島県のコミュニティづくりの指定を受け、発足以来十七年間にわたり地域の連帯と互助を基調に、文化地域福祉活動に取り組んでまいりました。

人はつねに大勢の人と共に助け合って、志を同じくする人の集り

がコミュニティであります。
いろいろと工夫をこらし、一人一人の形でコミュニティをつくりこうした中で高齢化社会の形成に取組み、地域に対する愛着心を深めながら、新しい時代に対応して、いろいろな発想を生かし様々な活動に取組んで行く事が大事なことだと思います。

幸にして、地御前地区コミュニティづくり、その中に、広報、文化、福祉、体育、生活、青少年の六部を設け、それぞれの形で活発に部活動に取組みつとめておられます。

今後さらに、高齢者、児童、心障者援護を要する方々が、家庭又は地域社会で温かく支えられながら福祉サービスにつとめ、青少年が健全育成されるような、心の通う温かい地域社会の形成を地区住民の皆さんと共に目指して活動を展開し明るい住みよい地御前をつくるよう努力致します。

新年を迎えるにあたり地域の発展とコミュニティ推進に深いご理解とご協力のほどお願い申し上げます、今後皆様のご健康とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。

平成6年度予算中間報告

みだしのこと、各部より事業経過を報告しておりますので予算の様子をお知らせします。

会費は全納世帯数が二二七世帯です。（予算を作成時二二七八世帯でした）

収入の部			
	予算額	残額	備考
会費	326,700	319,050	予算 150×2178 現 150×2127
諸収入	270,500	330,252	寄附、助成、利子
繰越	116,532		

支出の部			
	予算額	残額	備考
広報部	130,000	130,000	
文化部	65,000	40,000	
福祉部	95,000	50,727	
生活部	30,000	15,833	
体育部	300,000	9,088	
青少年部	10,000	2,300	
会議費	5,000	1,422	
事務費	20,000	13,911	
地域活動費	13,000	7,000	3件
慶弔費	10,000	5,000	2件
青年会館維持費	15,000	5,688	
予備費	20,732	20,732	

人を思いやる心 若宮 悟

この秋、小学校秋季大運動会に先立ち、母宛てに六年生の女子〇さんから運動会への招待状を戴き

ました。
私の母は現在八十七才で、一昨年から足が不自由になり、それに

母は一日中ベッドに寝てテレビを見ていますが音声も聞こえない為、よく寝ます。それで夜眠れなくて困るということで、それならと、午後は道に面した部屋で椅子に座らせています。そうすれば人通りも（小路ですから僅かな人ですが）あり、外を見ていれば寝る

耳が遠くなった以外には特に悪いところはあります。しかし足が悪いので移動は手を引いて歩かなければなりませんし、又長く歩けません。従って寝たきりになってしまったので、私から『出席出来ない事と、小学校最後の運動会を想い出に残る運動会になるよう頑張ってください』とお返事を出しました。

すると運動会が終わったある日、折り紙で作った多角形の星形の箱と花（花といっても花の茎一二、三センチの所から切り取り水に浸したティッシュを巻き、その上からアルミ箔でくるんだもの）二輪を持って見舞にきてくれましたが、私はいなくて末の子が受取ってくれました。

それから後、また見舞にきてくれ、その時は家内がいてお礼を言ったそうです。

これも学校の指導、家庭の躾、その子の人を思いやる気持ちの現れだと感じています。
今学校での校内暴力がニュースで報道されていますが、この子の様に一人ひとりが人を思いやる気持ちがあれば、こんな問題も少なくなるものと思います。

私もそのつど、『今頃でもあんな心優しい子がいるのかなあ』と胸にジーンとこみあげるものを感じます。

こともありませんので。
ところがその子は、学校の帰りに時々通学路からやや外れている私の家の前を通り、母が座っていると『おばあさん元気ですか』と声をかけてくれます。私も始め気が付きませんでした。私も日声がするので出てみるとその子でした。母が『何時もあの子が声を掛けてくれるんよ』と言うので、それから私は私が付けば出て行ってお礼を言っています。その後のこと、母が『今日は何時も声を掛けてくれる子が帰らん』と言いますので、『ここはあの子が帰る道ではないの』とたしなめましたが、母なりに心待ちにしているんだなと感じました。

各部だより

文化部

部長 北野正之

平成七年度の新春を迎え、謹んで新年のお慶び申し上げます。

地域に古い文化があります。その諸行事を再現し、それを盛上げると共に子ども達に伝承し、ふるさと作りと仲間作りのふれあいの場としてゆきたい。

昨年中の事業は次の通りです。公民館も落成して一年となりました。第一回地御前地区市民ふれあい祭りを開催し、地域の方々と共に楽しくふれあいの行事を行いました。各月の諸行事の手伝い、大人と子どもの集い、どんぐりクラブとして、昔の遊びの伝承を第二土曜日に行なって居ます。

又地区の文化保存会とも手を取り合って地域の助けとしてゆきたいと思う。

平成六年度行事を次のように行ないました。

六年四月三日 市民ふれあい祭
六年六月一三日 御陵衣祭

流鏑馬行事

六年七月一六日 小学校児童、そ

うめん流し、わらぞうり作り

六年八月一五日 盆行事

六年十一月三日 郷土歴史の道散歩

七年一月八日 とんど行事

△大人と子どもの集い昔の遊び▽
六年五月一四日 郷土名所めぐり

スゴロク遊び

六年六月二一日 ケン玉遊び

六年七月九日 そうめん流し、

竹コップ、著作

り
六年八月二二日 わらぞうり作り、

夏休み工作

六年十一月三日 郷土名所めぐり

「どんぐりクラブ」と

六年一二月十日 竹馬作り

七年一月一四日 風作り

七年二月二一日 風上げ大会

七年三月一一日 独楽作り

新年度も昔の文化、遊びを継承して、子ども達と共に伝承してゆきたいと思います。

体育部

部長 相原宏三

コ推協会員の体力作りを盛り上げると共に、触れ合いの和を広げる事を活動方針にして、二つの行事を実施して来ました。

第十六回の地御前地区運動会は各町内会長さんをはじめ多数の方々の随分前からの十分な準備にもかかわらず、あいにくの雨天により、小学校体育館でのオープン形式(区対抗で得点を争わない)での大会になりました。屋内のため幾つかの予定種目を中止したのに多くの方々に参加して戴き、声援も多く非常に盛り上がりました。準備段階では色々な意見のあった「応援の共演」も、各区で工夫を加えられて非常に好評でした。

地区では最大のイベントであると思っております。この大会を、参加なさる方々と一緒に育てて行きたいものと思います。

秋のハイキングは、今年から公民館からの補助金がなくなったので、参加料が少し高くなりましたが、昨年の新空港のときと同じように、受付を開始してすぐに満員

となるような評判の良さでした。

「紅葉の津和野」と名付けましたのに紅葉には少し早い感が有りましたが、お天気は良すぎるほど良く津和野の小京都らしさを味わって戴きました。帰途の「深谷大橋」も予想以上の喜び方をされ、主催した我々も嬉しくなりました。

健康を保つためには歩くことを基本に置き、その狙いでの体育部の「秋のハイキング」が、皆様のご理解を戴いているものと思いい、今後も続けたいと思います。

三月にはグランドゴルフと綱引きを予定しています。軽スポーツの一つとして人気の高まって来たグランドゴルフと、地区運動会でも評判の良かった屋内綱引きにも多数ご参加下さい。行事のお知らせは「地御前公民館だより」をご覧ください。

☆インディアカ

地御前小学校体育館

毎週 月曜日 一九、三〇、

三六、一六三〇永山洋子さん

☆ソフトバレーボール

地御前小学校体育館

毎週 金曜日 一九、三〇、

三九、一四五松本京子さん

☆グランドゴルフ

宮園公園(宮園小学校隣)

毎週 月・金曜日 九、〇〇、

三八、四一七八山田信喜さん

福祉部行事

福祉部は住民の住みよい町づくりを進める為次の通り行事を行う。

一人暮らし老人に対し老人同志のふれ合いを目的に年四回女性会役員の協力にて給食会を行います。

初め頃、遠慮勝ちの人も近頃は互いに誘い合わせ沢山参加されます。障害のある老人をシルバークラブで仲良く一日楽しく手足を動かしたり懐かしい歌を歌って遊び家族介護の手助けをしています。

独居老人ねたきり老人への巡回訪問、敬老会及福祉施設への援助奉仕等地域ぐるみで在宅福祉の実践推進等行っています。

生活部だより

謹んで新春のお慶びを申し上げ

ます。

昨年は、生活部活動に何かとご支援をいただき厚くお礼を申し上げます。生活部は地域の良い環境づくり、生活の向上に向かって、努力してまいりました。

平成六年度の、行事を、次のように開催いたしました。

九月十三日、地御前食生活改善グループの方々の、指導で、五回目の男性料理教室を開催いたしました。米の洗いかたに始まり、本日の献立について詳しく説明があり、四人、五人が一組になり約一時間で出来あがり。試食。毎回料理教室は、好評で、出席された方に、喜んでいただいています。

九月三十日、永福学級、女性会、生活部、共催で、交流食事をいたしました。私の人生という題で、渡辺悦孝先生の講演がありました。六十五名という多数の方が出席され、食事をしながら、和気あいあいと、楽しいひとときを過ごしていただきました。

平成七年一月二十四日、男性料理教室。平成七年三月十日。三部共催の交流食事を開催いたします。多数おいで下さいますよう、お待ちしております。

青少年部

部長 大倉 巧

本年の活動を報告いたします。

①管弦祭のパトロールは、近辺の学校PTA、地御前小学校PTA補導部などと連携してパトロールを実施しています。雨天にも関わらず子ども達の姿はあり、パトロールの必要性を感じました。

②地御前秋祭り『はな』につきましては、昨年に引き続き、子ども達の危険防止のために異常な『はな』の排斥の運動を行いました。

当日は市民会議の会長、廿日市警察署、地御前小学校PTA補導部、先生方の協力を得て、常時監視体制をとり無事に終了しました。まだ『子どもの楽しいイベントを奪う』という声もありますが現状では、遊びの中で子どもの死亡事故が生じて不思議でない状態です。保護者の方も危険を覚悟の上で子どもを参加させていたと言われてもしかたがないと思われます。

本来の『はな』はいろいろな形で再現できると思いますが、『子どもの楽しみ』を与えるという観点だけでなく、郷土文化の継承や

地域の活性化を考慮した、秋祭りに対する大人の体制作りを考えることも大切であると思います。

後日行われた廿日市地区の秋祭りには、神社の認めていない『はな』が出現し、それがけが人を出し、警察から注意されるという事件が起きています。もう地御前だけの問題として捉えず地域が連携して対処しなければならぬ事態となっております。祭りの開催についても責任体制を整え、運営も明確にすべき時が到来しているように思います。

③青少年育成に関する連絡協議会の情報交換活動について『いじめ』問題が社会問題としてクローズアップされていますが、以前より地御前地区におきましても検討がされています。社会情勢の変化により家庭、地域の教育力の低下がさげばれており、家庭、地域、学校が連携して対処する必要があります。地域の方々との人間関係を作ることも具体的手段の一つです。

このように考えると廿日市市のコミュニケーション組織における横の連絡網整備が今後の課題でもあります。

じとせんひろば



No.42
発行 H 8 . 1 . 30
地御前コミュニティ
推進協議会

ふれあいと 通う心で まちづくり

No. 4 2 - H 0 8

□印祇園社、×印空白地、地名は江戸時代の村名、△地御前△石内半坂△伴□天町大田川×可部根ノ谷△上根×△中馬×□三次△布野△茂田赤名峠、古代には陰暦十月即ち神無月に各地の神官が出雲大社に参会して情報を交換していた。この参会は古代満洲地方。東胡族の風習であった。大和朝廷では此の風習は無かった。又日本の神「カミ」東胡族の韓カン蒙古の汗カンと同義語である。

其の三は、明治五年の夏甘露降雨の奇現象があった事である。明治初年政府は神佛分離小社合併、厳島社の外宮廃止を勧告し、村民が八ツ面社の前で協議中この谷間に突然甘露が降雨した。村民は神が合併反対の意志表示をされたと解し合併しなかった事実がある。なお地御前西方に在る神能カンノ山の名称神賀の小山上に在った直径四米許りの土饅頭(古墳)などは出雲系のもものと推察している。

公民館俳句クラブ詠草

道しるべ隠す深雪の峠道	山崎 久
降り積る白さに映ゆる寒あやめ	吉田 春
夫の座の横は猫の座大炬燵	縄本 真理
三代の集ひめでたや初詣	坂本 朝
年初め身に叶ふ幸祈りつつ	日比野武夫
瑠璃光寺初日に映ゆる五重塔	丹良本香豆
刻つくる矮鶏の高鳴き年新	常吉 ぬい
朱の椀に彩のまぶしく齋粥	佐伯 好枝
瑞氣満つ鼓のひびかへる松囃子	藪野 道

コミュニティ づくり 会長 吉本 武

「新年おめでとう」と挨拶しているときは、「今年こそは」と思う。考えてみると、人生は、この言葉とこの決意とを繰り返しながら過ぎていくようにも反省される。

▲昭和五十二年四月に、広島県社会福祉協議会より、「地域の福祉づくり実践地区」一の指定を受け、二カ月間の準備期間を設け、六月五日に地御前コミュニティ推進協議会が発足した。やがて満十九年になるうとして。当初、コミュニティとは何か、もう少し適切な日本語はないものかなどといわれ、この運動は、コミュニティという言葉そのものの詮議から始まった。

▲今では、広島県ばかりではなく、新生活運動をも含めて全国的に通用し、我々のコミュニティづくり推進運動が重要視されている。それは、地域社会の人間関係の崩壊が日常生活の中で具体的に現われ、その連帯意識の必要性が痛感されてきたからだ。▲これからの、コ

ミニニティ運動は、地域社会の住民が、自身において和をもって作っていくという実践が強調されるべきである。それは、将来、地域社会を背負って立つべき青少年の育成にある。これは、決意の繰り返しではなく、実践の繰り返しとしない。

地域を愛する エネルギー

地御前公民館館長 北古正治

昭和五十二年県の指定を受け、以来、地域文化を通して、ふるさとづくり・仲間づくり・ふれ合いの場づくりと独特の構想と組織が、地御前の町民の皆様の協力によって実践されていることに敬意を表します。

地御前の町の皆様のまちづくり・ふるさと創生に積極的に活動されている場に参加させていただき、多数の人々との交わりの中で、得難い人生勉強をさせてもらっている昨今です。

コミュニティ(地域社

編集後記

コミュニティ推進協議会の発行している広報誌じとせんひろばは、昭和五十二年六月県の指定を受けて発足し、第一号は五十二年三月に発行を行い以来回を重ねて今回が第四十二号の発行となります。其の間地域の皆様を初め役員の皆さんの努力により地域に密着した情報や多くのエッセイ等を掲載して来ました。編集にあたり広報部員の原稿集めに始まり校正割付け等御苦労があつて今日に到りました。多くの地域住民の方々ご協力に深く感謝致しております。今後もこうした広報誌の発行は続けて行かなければなりません。

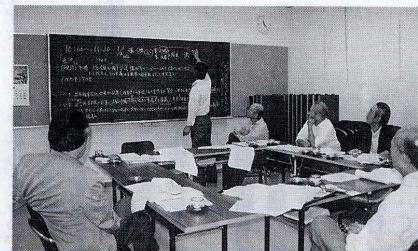
住民皆様方におきましてもより以上のご協力をお願い致します。投稿用紙はいつも公民館に備えてありますので、地域のために思いつかれた事、発表したい事等何んでも投稿して下さい。投稿による原稿が基本となりますので皆さんのご協力を切にお願い致します。

広報部

コ推協会則改正 委員会発足

会)として、地御前の町は住みよい所だと誰もが思うように、そして、実践活動の輪が他地域に益々広がっていくよう、皆様の新鮮な発想と地域を愛するエネルギー、そして皆様の連帯意識を大切に、今後のコ推協の発展を心から祈念する者です。

コ推協では、より地域事情にそつたものとするため、昭和五十二年に制定した会則を、全面的に見直すこととし、昨



年六月に改正委員会を発足させた。メンバーは会長、副会長及び一部の常任理事又理事で、事務を総括する公民館長を加えて十名である。

理事会の等の審議を経て、今年総会に提案される予定である。

各部だより

文化部

地域に古くから伝わる文化的諸行事を再現し、盛り上げると共に子ども達のふるさと作りと併せて仲間作りのふれあいの場を提供する。

昨年は地域の方々と共に、第二回ふれあい祭りを行ない、楽しい一日をふれあいの場とし、又諸行事の手伝い、大人と子どもの集い「どんぐりクラブ」として古い遊びの継承を毎月第二土曜日に行なっています。



地区の文化保存会の手伝いを通じて町おこしの助けとしてゆきたい。

平成七年度諸行事を次のように行ないました。

平成七年四月二日

第二回地御前地区市民ふれあい祭り

平成七年六月二日

御陵衣祭流鏝馬行事

平成七年七月十二日

管弦祭前州堀行事

平成七年八月十五日

盆行事

平成七年十月八日

氏神社 秋祭りの行事

平成七年十一月三日

郷土歴史の散歩道 どんぐりクラブ共

平成八年一月十四日

とんど行事

〈大人と子供の集い、昔の遊び〉

どんぐりクラブ

平成七年五月十二日

郷土名所めぐりスゴロク遊び

平成七年六月十日

ケン玉遊び

平成七年七月八日

そうめん流し、竹でコップ、箸作り

平成七年八月二十一日

わらざうり作り、夏休み工作

平成七年十月十四日

竹トンボ作り

平成七年十二月九日

紙ヒコキ作り

平成八年一月十三日

風作り

平成八年二月十日

風上げ大会

平成八年三月九日

独案作り

新年度も地域の文化を継承して子供達へ伝承してゆきたいと思ひますので、ご協力をお願い致します。

部長 北野 正之

福祉部

現在、我が国では少子・高齢社会の到来を目前に控え、国民誰もが生涯を通じて心豊かに安心して暮らせる福祉を実現していくことが緊急の課題とされております。

そのため「新ゴールドプラン」や「エンゼルプラン」を策定し、高齢社会への対応や、子育て支援

策を総合的・計画的に推進しておられるところです。わが福祉部においてもこの主旨にのっとりてささやかながら次の行事を行っております。

1、「ささけ会」で給食サービス

一人暮らし老人のふれあいを高めるため五月、一〇月、一二月、二月の四回給食会を行ない血圧測定で健康状態の確認および踊り等によって親睦を図っております。

2、敬老会

廿日市市が行なう敬老会の地御前地区について行事一切を行っております。ただし1、2の行事はすべて女性会と協力しております。

3、シルバークラブのお手伝い

障害のある老人のデイサービスのお手伝いを女性部員が行っております。月一回

4、一人暮らし老人、ねたきり老人の訪問

毎月一回以上家庭訪問し、健康状態等を把握し必要に応じて適切な処置を行っている。この件についてはすべて市福祉事務所に報告しております。

5、福祉施設への奉仕毎月二回、光の園デイサービスにこられた方のお世話を手伝いしております。

地御前の出雲系三社

大歳社 岩神社 並に八ツ面社に就いて

渡邊 通

一、地御前の古代の状況

地御前の所屬する古代「埃の郷」は、方言即ち民族的には、出雲系統に属し、前面海上の能美、江田島方面は安満（アマ）即ち南方海洋民族であり、西方の大野以西は、これ又、別言語の伯久岐國に属していた。即ち大平六年七三四に大野村以西が安芸國に属する迄は地御前地域は安芸國佐伯郡の最西端であった又埃の郷の人口数は大化改新（六四六）に依り郷の設置基準が五十戸、五〇〇人と示されているので僅かの人口であった筈、二、古代の埃の郷への神社の殺到

先づ初めに大國主の國譲り（BC一五〇頃）から出雲振根の殺害（崇神天皇のAD二七〇頃）以前に本件三社が進駐、次いで景行天皇の時（AD三三〇）頃大伴氏に率いられた所謂蝦夷（ニツクネム）諛計（サヤク佐伯、サワグサイキ）が来住し、多分水分（ミクマリ）社農業土木工事の祭神が平良谷の奥に誘致され、原平良の段々地が作

られ、三次的に成務天皇の時三五〇頃任命された初代安芸の国造（クニノミヤツコ）の死後、平良に墓地が設けられ、墓前社即ち速谷社が出来た之れには後に水分社が合併した。次に速谷社と前後して、原地区の川末と長野の両谷に大歳社（大年社）が出来ている。この祭神は素戔鳴尊の子、大年神即ち農業技術指導の神である。最後にAD六〇〇年頃に登場したのが、宮島（思加島、已が島埃の郷分の島）と地御前（一七〇〇年の地名の蔵島内外宮である、宗像本社では三女神、海洋民族系であるのに対し、之は天地初分の時の国常立尊、天照大神の一族の大神、出雲の素戔鳴尊を加え合計十一祭神とした、又祭祀官も大伴氏系を加え、謂わば合資会社組織のデパート経営に改組し、客筋も埃の郷の外に求めて、商売大当り大繁昌した。

三、出雲系三社の祭神と設置の目的
先づ祭神元村社であった大歳社

の祭神は大國魂命之は出雲政權を握っていた大國主命の別名である、出雲大社を代表する神社である。元地御前の田屋台地に在ったが附近住民が他に立退いたため、神が淋しいと詔宜され江戸時代のBD一七八九年に今の小学校附近の高台地に移られた。次の岩神社の祭神は素戔鳴命の岳父是那槌で大國主命の護衛役である。巨大な岩石上に在るので岩神社、昭和二十六年の災害後移転して岩鏡社と云い又神名に困って地名を阿品と呼ぶ

八ツ面社の神名は、悪名高き八岐大蛇（ヤマタノオロチ）である、地名も八ツ面谷、但し今次終戦後進駐軍を憚り祭神名を素戔鳴命に改めている、地御前では出雲との往復の連絡役と解している。

岩神、八ツ面両社は共に岩盤上に在り一社一神、且神名社名同一で古社の趣を示している。

設置目的

破格の三神態勢と両正面の異民族地帯への接近は、単なる出雲地域末端の強化ではなく、異民族地帯への進出にあつたと推測される。しかし十代崇神天皇の時（AD二七〇頃）出雲本拠の壊滅後任の国造（千家の祖）の代行で当初の本針

は頓挫したもので、能美方面には出雲系神社は僅か一社に過ぎない。伯久岐國方面には速谷社が變形して数社進出している。

四、注文すべ八ツ面社の三方面活動

その一は当地方にも八岐大蛇退治の伝説がある。勿論出雲伝説の焼直しである。即ち昔極楽寺山の蛇の池に大蛇が住み、悪事をするので、素戔鳴命が之を追出し、平良川の末端、可愛で斬殺した大蛇の首が空を飛んで地御前の沙田は落ちたよつて首を八ツ面谷に祭った。次の話は、昔は此の附近一帯の地名を命の名に「さあのお」と云ったが平良、宮内間のサアノオ峠を廿日市天神山の古名篠尾とに残っている大正時代まで原では八岐大蛇退治の演劇が行われていた。

其の二は片道距離凡そ一八〇軒米の出雲大社参りである。地御前から東北方出雲の国境赤名峠まで約一一六軒米の間に八ツ面社又は地名八ツ面が七ヶ所ほど残りその他重要な二地点には祇園社（素戔鳴命を祀る）が二ヶ所ある、其の他距離から見て欠落地が三ヶ所ある。次の通り、△印八ツ面社又は地名、

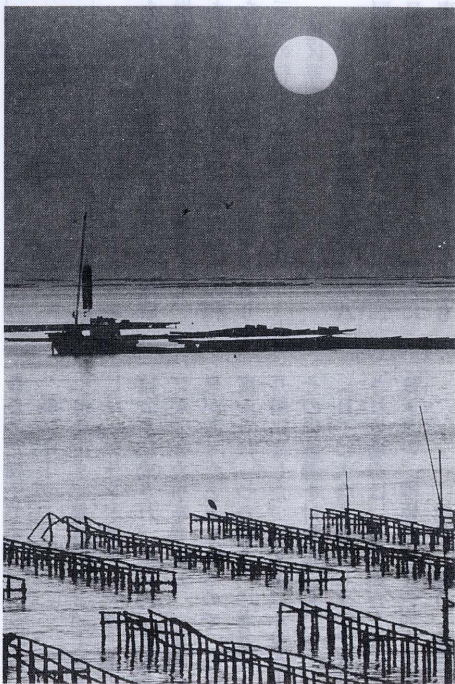
じとぜんひろば



No.43
発行 H9. 1. 1
地御前地区
コミュニティ推進協議会

地御前の皆様 新年おめでとうございます

No.43-H09



地御前コミュニティは発足以来
近く二十年を迎えんとしています。
人生二十年まさに成人式を迎え
るに等しい一つの節であり、まこ
とに嬉しいことでもあります。
この度厳島神社が世界遺産の指
定を受け、それに最もゆかりの多
いのはこの地御前の地であります。
また新年から放映される毛利元
就が出世の緒となった厳島合戦は、
この地御前が発進の地「火立岩か

新しい年を迎えて

会長 吉本 武

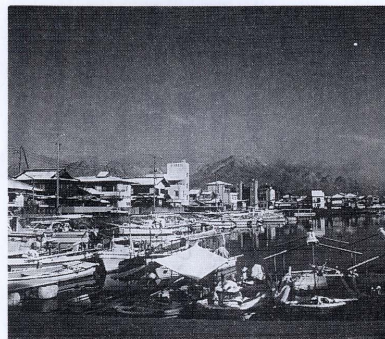
ら船出」となったと聞いておりま
す。また地御前は過去においては、
海外雄飛の村として、今はかき生
産の優秀さで名声を高めています。
二十年前我々の先人達がこの地
御前を理想郷とする桃源郷をめざ
して、夢の実現に努力してきたこ
とに思いをいたし、共々に心を結
集してコミュニティの目的に向っ
てご協力賜りたいと、平成九年
の年頭の挨拶といたします。
なお巻頭に掲げられているコミュ
ニティのシンボルマークは、二人
でなく、三人が手をつないだ姿で、
共々に多くの人々を表わしたもの
であります。

新しい時代に 則した 会則の改正

第三条(目的) 本
会は、地区住民が「コ
ミュニティ」推進事業
のもとに、親睦と連帯
による実践活動を通じ
て、心の通う温かい福祉社会を作
ることを目的とする。

地御前地区コミュニティ推進協
議会の会則改正案は、今年五月の
総会で承認されました。
主な改正点は次の通りです。
① 関係団体以外の構成員の名稱
を「学識経験者」(専門委員)か
ら範囲を広げて「有識者」とした。
別表で、従来の「組織図」を分
類して、関係団体、団体役員及び
委員、本会の目的に賛同する人の
3区分とした。
② 構成員は、事業6部の何れか
に所属して活動することを明示。
③ 理事として、新たに関係団体
の代表者が増えられた。別表では、
長寿連合会、女性会、青年会、商
店会、PTA及び保育園保護者ク
ラブがあげられている。
④ 事務局は公民館としてあるが、
役員としてではなく、会計、記録

さまと共に、青少年の健全育成
に努力したいと考えております。
2、御陵衣祭の清掃奉仕
六月二十日夕方、青少年部員、
ボーイスカウトなどの十九名で、
神社周辺や関係通路のゴミの収
集処理をしました。
3、管弦祭でのパトロール
管弦祭の時には、例年神社の裏
側、学校の校庭等で、かくれて
悪戯するものがあるので、慎重
なパトロールが望まれ、青年
部、ボーイスカウト、小学校、
中学校各PTAの方、十二名
(二班に分れて)でパトロール
を行いました。
4、管弦祭翌日の清掃活動
管弦祭の翌朝六時から七時ごろ
まで、青少年部員で地御前神社
周辺のゴミの収集処理を行いました。
5、秋祭りのパトロール
十月十二日、十三日の秋まつり
は例年大変な人出があります。
青少年部員、野坂中、地御前
小の指導の先生方と各PTAか
らの参加者総数五十六名で二日
間を二時間づつ交替(六名の組
編成で)パトロールを行ない、
特にハナが子供達の事故に至ら
せないよう配慮して行いました。



このため、毎年無事にお祭り
が終えていることは、喜ばしい
ことであります。
なお、まつり行事に悪質な遊
びやハナが現れなかったことは、
幸いです。
6、こども会成人指導者支援
毎年前期七月二十日、後期十一
月九日の二回のこども会成人育
成指導者研修会参加者には参加
交通費を支援しています。
小中学校の先生方、PTAの
役員の皆様方はじめ、各町内会
長さんや地域の皆様には格別
のご協力により、本年度も有意義
のうちに終了できますことを厚
くお礼申し上げます。
部長 大倉 巧

広島総合病院の 増改築計画

先日の地御前地区の町内会長会
議で、同病院の事務長の方々から、
次のような計画が説明されました。
工事期間は、平成9年4月1日
から同10年秋ごろまで、関連工事
は同12年3月までの予定。
①8階建(地下一階)新病棟を敷
地内西北側(現駐車場)に増築す
る。ベッド数は、430から57
8床に増加する。
②6人部屋はすべて4人部屋とし、
新館では病室内に手洗いとトイレ
を設ける。
③待合室を増設し、待時間も減少。
④駐車場(3F)は、1600台分
を新設し(現在70台)向かいの
寮側と合わせて2800台とする。
⑤工事中の公害・安全対策は、養
生シートの設置や交通整理員を配
置するなど万全を期す。
⑥電波障害の有無は十分に調査し、
必要な措置は講ずる。
これに対して町内会長会は、駐
車場、工事中の道路の渋滞、電波
障害対策の実施、問題が起きた場
合の話あい等を要望しました。

編集後記

本年のかきは順調に生育され、
地元及び東京、阪神方面に盛んに
出荷され、家庭の食卓にも美味を
添えていることでしょう。
初日の出の写真、手前はかき種
つけひび、沖は成育かきのつりあ
げは戸川春義さんの作品。かきの
生産に賑う地御前漁港(雪景色)は
世田真寿男さん作品。運動会の子
供会の応援は中村英雄さん作品。
地御前コミュニティのシンボル
マークは故小方一郎さんの創案で
あります。
お正月の「こたつ」の中でも、
読んでいただこうと急遽編集を初
め、各部長さんにはご無理なお願
いをして提出していただきました。
文は人なりという言葉があります
が、各人それぞれの人柄がづく
づく感じられることに驚きました。
各部においてはそれぞれ真剣に
取り組んでおられる現われが見え
ます。たんねんにお読み頂ければ
幸いです。
何分にも不馴れのこと故、広報
らしからぬものになりましたがお
ゆるし下さい。
広報部

体育部

などをお願いするものである。

⑤ 会費は、表現のみを変更した。「地区町内会ごとに一戸当たり一五〇円に戸数を乗じたもの……」

⑥ 従来の「内規」は「細則」に改め、表彰制度を設けた。「広島県を代表し全国大会に出場する場合（申し出制）」の激励金は、従前通り。そのほか条文を整理して、わかり易い表現に心掛けてあります。

関係団体（代表者）、表示された団体役員及び委員並びに顧問の方には、役員又は構成員としてよろしくご協力ご援助の程、お願いいたします。

また、本会の目的に賛同する方々が、幅広くご参加下さいますよう、よろしくお願いいたします。



スポーツ及びレクリエーションを通じての体力づくり並びに健康増進をはかることを目的として、あわせて地域住民の触れ合いの和を広げるものとして、例年どおり三つの行事を計画しました。

地区運動会

教育委員会の援助を受け、十八回目の運動会を五月十九日の第三日曜日に開催致しました。好天に恵まれ、各町内会長さんや子ども会役員さん等のご協力を得て、幼児から高齢者まで多くの住民の方々の参加をいただきました。競技は四区の優勝で終わりましたが、地御前商店会のご協力もあり、競技終了後も、触れ合いの輪が広がった事はうれしい事の一つでした。

ハイキング

住民の方々からの期待がすっかり定着した感のあるハイキングは、貸切りバス2台で、福山市の浦と明王院へ行きました。十一月三日（祝日）は何かと多くの行事が重なった日でしたが、参加者は汗ばむほどの良いお天気のもと、おいしいお弁当と美しい景観を満喫

なされた様子です。

軽スポーツ

前年度まで普及につとめていた「グランドゴルフ」は、市の協会が結成され、地区内にもクラブができた事を考慮し、一応の成果があったとみられるので、昨年度からは「つな引き」の普及に取り組みました。本年度は小学生とその保護者を対象に三月二十三日（日）に大会を開催します。応募される場合は、公民館だよりをご覧ください。積極的にご参加下さい。

部長 相良 宏三

文化部

地域には古い伝統的な文化があります。その諸行事を再現して、それを盛り上げると共に、子ども達に伝承し、ふるさと作りと合わせて仲間を作る、ふれあいの場にしてゆきたいと思います。

今年四月に地域の皆様と共に、第三回ふれあい祭りを開催し、一日を楽しいふれあいの場といたしました。

地域の諸行事へ協賛し、古い遊びを継承する大人と子供の集いを、「どんぐりクラブ」として、毎月

第二土曜日に行っています。

また、地区の文化保存会と共同で、町おこしの助けにと願っています。

平成八年度の行事は、次のように行っております。

四月 七日 地区ふれあい祭り
六月 二十日 御陵衣祭 流鏑馬
七月 三十日 管弦祭前州堀行事
八月 十五日 盆行事

十月 十三日 氏神社秋祭り

十一月 三日 郷土歴史の散歩道

平成九年一月十二日予定 とんど

△大人と子供の集い 昔の遊び▽

五月 十一日 郷土名所めぐり

スゴロク遊び

六月 八日 ケン玉遊び

七月 十三日 紙工作（ヒコキ）

八月 二十四日 水鉄砲作り

九月 十四日 竹トンボ作り

十二月 十四日 紙工作を変更

映画会に参加

平成九年一月十二日予定 凧作り

二月 八日予定 凧揚げ大会

三月 八日予定 独楽作り

今後共地域の文化及び遊びを継承し、地域の方々、子供達と共に伝承してゆきたいと思っています。

部長 北野 正之

福祉部

わが国は、二十一世紀の超高齢・少子社会の到来を目前にして、在宅福祉活動に大きな変革が図られております。

特に高齢者福祉問題においては、公的介護保険制度の創設が図られており、一方では児童福祉制度の見直しも始まっております。

また本県においても、「広島県福祉のまちづくり推進協議会」が設置され、住みよいまちづくりの実現に、積極的な取り組みが行われようとしております。

こうした中で、わが福祉部では、現在、ささやかながら次の行事を行なっております。（１、２の行事は女性会と共に）

１、「ささえ会」で給食サービス

一人ぐらし老人とのふれあいを高めるため五月、十月、十二月、二月、四回の昼食会を行ない、健康状態の確認や、踊り等を行って親睦を図っております。

２、敬老会

地御前地区の敬老会の行事一切を行っております。

３、シルバークラブのお手伝い

障害のある老人のデイサービスのお手伝いを、女性部員が行っております。月一回

４、一人ぐらしの老人、ねたきり老人宅の訪問

毎月一回以上家庭訪問し、健康状態等を把握し、必要に応じて適切な処置を行なっております。この件については、市福祉事務所に報告しております。

５、福祉施設への奉仕

光の園にデイサービスにこられた方のお世話を手伝いしております。以上のことをこれまで行っておりますが、これからはますます福祉に関するニーズが増大して参りますので、これに対処するには、福祉部の強化およびボランティアグループとの協力等が、必要になってくるものと思われまします。

部長 柳川 練

生活部

生活部活動に何かとご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

生活部は、コミュニティを推進し地域の良い環境つくりと、日常生活の向上に努力して来ましました。

青少年部

本年も昨年同様に、将来地域社会を背負って立つべき、青少年の

健全育成に努めています。

そのために第一回青少年部会を五月十七日公民館において開催し年間活動計画を審議しその主要項目の実施内容は次のとおりです。

１、地域青少年に関する情報交換

（六月十三日第二回青少年部会

の議題も同じ）部会の出席者は、

地御前小学校長、同PTA役員、

野坂中教頭、同PTA会長と各

地区役員数名、人材センター所

属の元廿日市青少年健全育成会

議委員OB、地元市会議員、コ

推協会長外各部長を含めて二十

六名で、地域における青少年に

関する情報交換をしました。

この話し合いの中で特に貴重

な意見が学校側から出された。

非行の問題については、学校

では常に指導育成に努めている

が、学校外での非行については、

地域は勿論、特に家庭において

指導してほしいと強く要望され

ておりました。

このことは、家庭と地域が力を合わせて非行の防止に努力してゆく必要があるということです。

私たち青少年部もコ推協の部員の協力を得ながら、地域の皆

じとせんひろば



No. 44
発行 H9.3.30
地御前地区
コミュニティ推進協議会

コ推協発足20周年記念特集号第1集

— 皆様のご協力を得て、思い出などを寄せていただきました。

No. 44 - H09



地域の温かさに感謝

地御前小学校長

荒木尚子

地御前小学校の子どもたちは、大変幸せな地域に住んでいると私は常々思っています。と申しますのは、先ず、誇りある古い歴史に裏づけられた伝統文化があり、温かく心の通い合うコミュニティづくりができていく地域だからです。今年度も、学校へは地域の方々が何度となく訪れて下さり、指導をして下さったり、一緒に活動をしたりして、子どもたちは得難い体験を数多くさせていただきました。

今年の年賀状

元コ推協監事 一階堂 正巳

「ひろば」への投稿の依頼を受けてまして、さて何を何としようかと困りました。色々考えた末、別掲の様な写真を貼付した「今年の年賀状」に決めました。

今年は毛利元就生誕五百年に当り、又、NHKも大河ドラマとしてテレビで放映することとなり、

各地区ともイベントで大々です。兎に角、今年は元就の年です。それで当地にも由縁がある所を紹介いたします。

火立岩（はたていわ）又は小坊頭（こんぼうず）。写真右端の小さい島は弘治元年の厳島合戦に毛利軍が前線陣地を設けた灰床山、のちに鶴山（ひよりやま）の東南麓の海辺に在りました。左上は現在の光景で、電車の下辺りが火立岩になるうかと存じます。

史跡めぐり

K生

コミュニティは地域振興の方策として組織作り、住みよい地域づくりを推進するもので、みんなが気軽に参加出来るのが要件である。

我が住む郷土には独自の寺院、神社、祠等の史跡があり、これは郷土の誇りでもある。

地域に住む以上、地域の歴史伝承を受け継ぎ、よりよい社会を作ることに努めなければならない。そのためコミュニティにおいては、発足の当初から郷土の史跡めぐりを計画し、「歩け歩け運動」を実施してきた。それは体を鍛えると同時に、地域の良さを知る手だてもある。

我が住む地を歩いてみよう。歩くことにより体験を通じて、我が郷土の誇りを知り、郷土の文化の大切さがわかる筈である。

編集後記

コミュニティ広報紙の数多くの珠玉の記事の中で、今も印象に残っているものに、鉄道わきの

道のほとりの四季それぞれの花が咲いている姿について、人生がこのように皆で美しくありたいとの願いがこめられているように、感動を受けたものである。
温和なこの地御前に生きることの喜びがある。

さて、昭和五十二年四月に県下六地区のうち、廿日市市（当時は町）の地御前がコミュニティ推進モデル地区として指定を受け、六月に町内各種団体が相集まって、地域の振興をはかるためのコミュニティづくり推進協議会を結成し、早や二十年の歳月を経て、人生まさに成人式に相当する、記念すべき平成九年を迎えることになり、今回、特集を企画し、三月に第一集を、七月に第二集を発行することにした。

思えば二十年前、我々の先人の方々、それを受け継いでこられた多くの皆様が、この地御前を住みよい地域にしようと努力されてこられたことに、敬意を表したいと思います。

第二集（締切六月初）の原稿を公民館までお寄せ下さい。懐かしい写真などもお貸し下さい。（広報部）

偶感

K・I

文化とは、人間の作りだす生き甲斐であるという。長い人間の歴史から、国の文化、地域の文化、家の文化ができた。

日本の文化の中心は、家の文化である。その家の概念は、
①家は先祖に感謝する所である。
②家は家族が生活する所である。
③家は憩いの場所である。
④家は驍の場所である。
⑤家は労働力を造る場所である。
⑥家は相続されるものである。
この条件を満たす所に文化がある。

動物の世界では、賢いものほど巣が立派であるという。
家のつながりを持つことが地域であり、地域のつながりを持つことが国である。日本の文化は「恥を知る」文化という。「恥ずかしい生活」でありたい。

コ推協と婦人会

コ推協副会長 山崎 憲子

私が女性会（当時は婦人会）の会長になった十二年前、故小方一郎会長から、婦人会をコ推協の婦人会にして欲しいとの強い要請がありました。

小方会長は婦人会イコールコ推協の婦人会とすればいいではないかとの事でした。私は婦人会は自分の意志で入会している自主的な団体で、コ推協の婦人会とは性格がちがう組織だから、入るとすれば解散するしかない。コ推協に新しく婦人会を作りたいと主張し物別れにおわりました。

女性会は現在それなりに地域に根をおろし、活動しておりますが、あの時解散してコ推協の婦人会になっただらどうだったろうか、あれで良かったのかと、おりにふれ思うことがあります。

失楽園

谷口照彦

過日西瓜の出荷をテレビで見たのは、まだ寒さも去りやらぬ日だった。夏の最中に冷やしてと思っていたが、イチゴなどとともに、食べものに旬は無くなってしまったのかもしれない。

その昔から、先人達が額に汗し耕してきた田畑は、容赦なく埋められ、山も自然も削られている。何十年か先には、世界的な食糧不



▲昭和年代「ニツ山より見た地御前地区」

古い石積みみの波止場の
上から眺めるふる里は、
後の山々が幾重にも連なっ
た緑の中に、春は山つつ
じや山畠の桃の花が彩ど
りをそえながら、山の端
は海岸につき出して内海
に接し、沖合いは宮島に
続いて島々をめぐらし、
四季を通し豊かな恵みを
育て続けた。
昔からの半農半漁の日
常生活により濃やかさを
増した人情は、温暖な気
候風土と共にふるさとの
良さを引きついで来た。
又、新開の拓けるにつ
れて暮しの場としての

ふるさと

小方 明

足になるという話もあるが、そのころは吉本宇一さんの言っておられたように、丸薬一つで満腹？ということになるのか。
やがて「旬の味」や「田園」も死語になっていくのかも。
そして人は、クロニン人間として同じ顔、同じ姿で、死ぬことすらもなくなるのではないかと。

足になるという話もあるが、そのころは吉本宇一さんの言っておられたように、丸薬一つで満腹？ということになるのか。

感想

K・W

最近ある先輩に地御前地区コミュニティ推進協議会の誕生時の資料を頂いた。発足時の役員、メンバーは、地御前地区を代表される方ばかりで、地区住民の住みよいまちづくり、真剣に取組まれたことがよく伺えた。今年は昭和52年から発足以来伝統の二十年になる。

この間、会則第三条（目的）により、毎年度事業計画を協議し、各種施策等々実施されたことについて、役員及び各部会メンバーの皆さんの御苦労と熱意に敬意を表したい。

最近の話題として社会の変革等により、従前の大型人間と平成猫型人間の論議がある。猫型人間が必然的に増加が見込まれるこれらの時代は、地域住民の皆さんの一層の理解と協力が求められる。

思い出

コ推進副会長 林 扶美夫

発足二十年の節目の今年は、いまだ一度原点に返って自己啓発し、役員の皆さんにもリーダーシップを期待するものです。

広島県内で地御前地区が、コミュニティ推進地区に指定されてもう二十年。その頃のことをふりかえってみると、地御前地区運動会を実施するにあたり、地区内を幾つかに分けた方が盛り上がるのではと言うことで、数名が1宅に集りどの様に分けたらよいか非常に悩んだ結果が、今の一区二区三区四区である。その時は世帯数、子供、大人の人数も大体同じ位に分けたが、現在は随分発展し、ばらつきも出て来た。

しかし毎年お世話をして下さる皆様のお陰で、今も続いている地御前地区運動会、一堂に多くの人が集まり話し合いの場が出来、そして一人ひとりのつながりが深くなり、住み良い町になって行くことを願うものである。

二十年前に宮沢知事さんから頂いた公民館の掛軸、「集まる学ぶ結ぶ」の言葉を大事にしよう。



▲平成8年2月「同地点」 何れも小方 明さん撮影

まじわり

木本文三

廿日市町は五つの地域の合併で生まれたことは皆様もご承知のことです。その中でも廿日市町地区対抗運動会における地御前地区は、第一回大会より盛り上がり、旧老人クラブ、婦人会、PTA、消防団が何度となく話し合い、競技に応じた選手を選び昼食のことや資金のねん出に力を入れました。何といつても大会当日、他地区の人々

コミュニティへの参加

地御前郵便局長 谷野 純一郎

が驚いたことは、地御前は地区を上げての大応援団を結成し、団長、団員が舞う一拍子、二拍子、三三七拍子に地御前特有の太鼓、笛、特に得点が重なるたびに進軍ラッパが鳴り響き、毎年優勝して地御前に帰り、子供、大人合わせて打上げをしていたことを思い出します。このようなまとまりから廿日市町は、地御前にコミュニティ推進協議会を作り、今後更に廿日市町各地区にコミュニティが出来るよう見本を示してほしいといわれたこと、その頃を懐かしく思います。

地御前の電停から踏切を越え、最初の四つ角を左に二軒目が郵便局。昭和39年に建てられた今の局。その前は住宅兼用で、私自身幼い頃、砂利道をバタンコが通っていた頃の地御前で暮らし、今もって心地良い思い出となっています。この良い思い出は、子どもを育くむ共同社会あればこそつくられたものだと思います。今、きっかけで気軽に行ける町の「郵便局」を通して、豊かで楽しい心のあるコ

スクラム

S・K

先日友人に誘われて、山口に珍しいにぎり寿司を食べに行きました。まさに珍しいの一言につきる絶品、偶々昼食時で店内は満員の盛況で相部屋となった。
同じ部屋で最近定年になったという中年夫婦と出合った。その人も知人から聞いて、態々広島市内から食べに来たとのこと。定年になって孤独になった今、大切なことは趣味を生かし、より多くの人々に接することである旨力説しておられた。全く同感である。

地御前にも知られざる出合の場所がある。地御前神社前の埋立地（俗に一部の人は年金波止場と呼ぶ）。

コミュニティに思う

奥野法保

ぶ）。そこには各地区から色々な人が沢山集まり、これといったテーマもなく、和気藹々と地域の発展について意見を交しながら、人間関係を形成することに努めておられる。
こうした風景を見るにつけ、これぞコミュニティ活動の一端だなと感じる。一度お暇の折、散歩がてらにお出かけになってみては。

インターネット、デジタル通信と初老の私にとっては無縁であるが、そんな時代の波が押し寄せている。

最近では手紙をしたためたり、文章を綴る人が少なくなつたらしい。パソコンが伝達の主流となりつつあるが、物を書くことは頭脳にも健康的にもよいらしい。しかし書くという面倒がないので老いも若きもそれに人気がある。

これに限ったことではない。機械という名のつくものは大なり小なりコンピュータ化している。機械に翻弄されて、せかせかしい世になった。男、女、老若が失われて来ている。機械がどんなにソフ